

森の民話茶屋通信 Vol.8

福島県地域づくりサポーター事業
『ふるさとの民話とふるさとの森をつないで...』



今年最後のお客様は郡心がら。



うーっ!これ700円!?



店主スケッチの「森の民話茶屋」
クロスカントリースキーステーション

～5月20日～12月20日毎月1回発行～

発行責任者／森の民話茶屋店主 後藤みづほ

福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林7林班 Tel.090-3121-4481

店主が主! 村のオウ子 Vol.7

熊を見つめて50年...
松井行雄さん(71才)・アイ子さん(70才)を訪ねて



『熊撃ち』の話はおもしろい!とは何冊かの本で読んでいたが、「熊撃ち50年」の松井さんの話は楽しくて温かくて、本に書いてあった通りであると実感しました。何回か電話をしてようやくお訪ね出来たのは、11月の初旬の秋晴れの日でした。行雄さんは村の環境衛生指導員としても活躍ですが、5年前から始めた熊の独自の手味で好評を得ていらつしやいます。何よりも「ゆきあんちゃん」と私のような若輩者までが気安く呼ぶことを許してくれる優しい方がいます。アイ子さんの美味しい白菜の漬物を頂きながら、お二人の結婚の頃からの話を伺いました。

今年の山はどんぐりや栗が豊作、あけびやぶどうは不作でした。

Q/結婚52年です。随分若い新郎新婦だったのですか。
行/そうぞい、19才と18才。婿(かかあ)は18才なんねがった。3月3日なのは大雪で...

ア/提灯つけて、行列作ってナ。あの頃は花嫁は笠を頭にかざされ、袴(きん)を置いた数屋をまたいでこの家に入ったの。そして台所から上がったんだよ。

Q/その頃から電気工事の仕事を?

行/いや、20才頃からだ。

Q/鉄砲撃ち(熊)は何才位から?

行/22才頃かな。最初は空銃、次が散弾銃で今はライフル。獲物を最初に捕った時のことを覚えてますか?



行/あれは、「山鳥」だった。無我夢中だった。まず婿(かかあ)に見せたい...と思ったナ。そう語る行雄さんの目が輝いて...

ア/山に出掛ける時は朝4時起き、おにぎり作ってやつてナ。二人の呼吸に納得。行/獲物があると、婿(かかあ)の顔の次に「誰に分けてやつかあ」とばかり思うナ。Q/熊は腕ですか?

行/いや、「1」に足、「2」に腕、「3」に腕。つてナ。ほんでも犬も10匹の中の2匹ぐらいしか良いのは無えナ。

Q/どの辺が熊場だったのですか?

行/名倉山から又兵衛山、そして岳山(安達太良山)だナ。ア/あれ昔ナ。正月間際に雪の中をアカアで山サ楽運びに行つた時ナ。俺に鉄砲を逆さに背負わせて、取りの足跡を見つけると「鉄砲寄こせ!」つてナ。

Q/当時は人の暮らしの中に熊はなくてはならないものだったのですか?

行/あの頃は栄養滋養の為に、動物性タンパク質がなくて必要だったのナ。兎も娘(き)も山鳥も大変の貴重な御馳走だった。娘はめでたい積には無くてはならないものだった。今は時代がすっかり変わって、熊はハンターとなり、レジャーとして残っているというのかナ。でも有害駆除の大事な仕事がある。

Q/今、山の中の様子はいかがですか?

行/県内の山の中の全部にも言えることは兎がなくなつた。その代わり狐が多くなつた。伐採の関係もあるのかもしれない。でもその狐も病気が流行つていて危ないと言われている。それとここ10年熊(き)がめづきりなくなつた。里山の様子がすっかり変わったし...

安達太良山には約30頭の熊がいる

Q/初めて熊を撃ったのは?

行/冬ごもり前の11月だった。熊師仲間たちと2頭。熊はどこの熊だか知らず、熊の胃(くまのい)は貴重なお産で、熊の胃一つが駐在さんの1年分の給料だった。熊は熊だか知らず、熊の胃一つが駐在さんの1年分の給料だった。熊は熊だか知らず、熊の胃一つが駐在さんの1年分の給料だった。

ア/山はどう探りに連れていかれた時、茨(いばら)がトンネルになつて、熊を見せられて、これが「熊の道」だと教えられた。どきどきしたナ。

行/今は遊学駆除の指令が無いが、熊撃ちはやらない。大玉村ではここ2年熊つていない。

Q/安達太良山には、何頭ぐらいいるのですか?

行/今は約30頭だと思ふ。一頭の熊の生きたる沢を数えるのと約30箇所だ。この前10月2日の風の強い日、カラツツアワ(?)の「ムジナクボ」(?)の岩の上の松の木に3頭の熊が重なるのを見つけた。周りの木が風で揺れて、熊の重なるのを見つけた。周りの木が風で揺れて、熊の重なるのを見つけた。

したらまず、親が逃げた。子ももう60センチ位になつて、自分から逃げた。おともつたんだな。

Q/山の様子、熊の様子、見つけた時の緊張と興奮が聞いている私に真直ぐ伝わつてきた。

不法投棄のゴミを拾って、ゴミを投げていると間違わぬで

Q/絵がとて好評なのですが、いつから描きはじめたのですか?

行/5年位かな。「あたらを知る会」で分を持って来られて、それに絵を描けと言われたのがきっかけで...

Q/行雄さんの記憶力と集中力のすごさも驚きますが...

行/熊師をしていたからナ。熊師は11月生まれが多いんだゾ。不思議だナ。「真夏に生まれた人にハンターはいない」って俺、思うんだ。

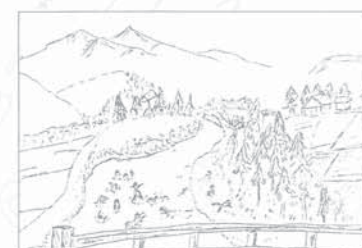
Q/それじゃあ、真夏生まれの人が記憶力や集中力が無い...みたいじゃないですか?

行/いやいや、そういう意味では無くて(笑)。

Q/絵はどんな時に描くのですか?

行/雨の日とか外仕事ができないうちに時間を見て描く。

安達太良山の熊を描いた「岳山のオヤジ」は、スライドになり平成11年の「安達太良の環境と景観」を考えるフォーラムで上映し、その後ビデオになつてい



松井さんの絵。昔の安達太良川。

MAP



るので学校や幼稚園でも使ってもらいたい。
Q/村の環境衛生指導員をしていらつしやうて感じることとは?
行/とにかく不法投棄のゴミが多い。1日に三ツ森(竹ノ内ノ八坂神社ノ西ノ内ノ民の森ノ小姓ノ内)を廻つてゴミ袋に20本にもなる。どんなに看板を立ててもゴミを山に捨てる人が多いのがつかりしてしまふ。ある時など拾っているのに捨てると間違われて役場に通報されたこともあった。
Q/本村に苦勞さまで。大変ですね。
行/村でも一人で追いつかないだらうと指導員を増やして、くれそうだから、又頑張つて行くべ。
Q/行雄さんは小さい頃から自然を見てきて、今何を感ずますか?
行/そうぞい。自然は貴重なバランスの上に成り立っていると思うから、人も自然との共生を常に考えなくてはならないとつくづく思うナ。曾孫の主裁くん(3才)に昼食の準備を手際よく作って食べさせるアイ子さんは「息子らにも昔の話を聞かせてやったら...」と言うんだけれど「どうせ昔の話って言われ...」なんて言うんだゾ。聞かせたら良いのに...と笑いました。大玉村の「熊撃ち」は少し照れくさそうでした。誰かが助けを求めたら必ず飛んで来てくれて、惜しげもなく山で培った生き抜く知恵を授けてくれるご夫婦でした。

13年度の開店を終えて

森の民話茶屋店主 後藤みづほ

今年の「森の民話茶屋」は、うつくしま未来博の開催と重なって、スタッフ一同慌ただしい毎日でお客さまには随分とご迷惑をおかけしました。何とか無事に10月28日(日)を以て終えることが出来ました。

それでも4月29日からの日曜日と祝日の日を除いて32日開店出来ました。これも大勢のお客さまのご来店を頂いたお陰と厚く御礼申し上げます。

中には昨年からの東京のお客さまや、今年になって春にお見えになり、「今度秋には是非、友だちを誘って来るから…」と約束を果たして下さったお客さま。そして、もう毎週来て下さる常連のお客さまと、本当に嬉しいことばかりでした。

又、二本松市の幼稚園生68名やJA女性部の研修などの団体の皆さまとも楽しい森の中の時間を一緒に過ごすことが出来ました。

スタッフがたった二人の時などもありましたが、お一人お一人に何とかお声を掛けておもてなしが出来たのではないかと思います。

最後の日、常連の方がご家族でお出でになり、「何だか寂しいね」と言って帰って行かれました。来年も又、お会いできることを願って戸を閉めました。

応援して下さいました県及び村当局に深く感謝申し上げます。

「森の民話茶屋」の次の事業は!

平成13年度「森の民話茶屋」の次は「第2回・森の民話茶屋in彦ハウス」です。来る12月9日(日)、大玉村玉井字五里田の野内彦太郎さんの旧宅「彦ハウス」にて、下記の通り開催いたしますので、お誘い合わせの上お出下さい。

記

名称/第2回森の民話茶屋in彦ハウス
日時/平成13年12月9日(日)18時～
場所/彦ハウス(大玉村玉井字五里田)
入場料/無料(要予約)
大人のみ限定100名

「民話と三味線の音語り」
語り: 田代 孝之(郡山語り部の会)
国分 幸恵(森の民話茶屋)
後藤みづほ(森の民話茶屋)
三味線: 町田 祐次(茨城県水戸市)
書: 海老沢朋水(茨城県水戸市)

—予約・お問い合わせ先— TEL.090-3121-4481

トシさんの
漬物レシピ
～その7～
ピクルス

材料
大根…1本
キュウリ…3本
人参…2本
玉ねぎ…大2ヶ
砂糖…1kg
SBカレー…1缶(小)
酢…2合5勺(500ml)
塩…1合(180cc)

作り方
・大根は太ければ銀杏切り(細ければ半月切り)、キュウリは輪切り、人参は短冊切り、玉ねぎは半月切りと、それぞれ切っておく。
・塩で一晩漬けて、水を切る。
・砂糖、酢を煮立て、カレー粉を加え、冷めたら具にかける。
・3日間置き、汁だけを鍋に移し煮立て、冷めたらもう一度具にかける。

7月24日 福島広域行政事務組合 在日外国人交流事業から

おもいで集



在日外国人交流事業の皆さんが到着。

インタビューを受ける男の子。↓



メッセージを書き込む女の子。



↑さよ～なら!

←記念にお土産をねだる女の子。



TV局の皆さんも、やっと一息。

『毎週日曜日は森の民話茶屋で昼食を…』と、楽しみにして顔を見せて下さる本宮在住の御夫婦に出会って、嬉しくなると、毎週お手伝いに通っていました。

“おふくろの味”の腕ふるいます。朝、畑から採った野菜を使って体に優しい料理を作ります。森の民話茶屋のボランティアは楽しいですよ!



食生活改善グループ前会長 鈴木イミ子さん
大玉村玉井字百々目木

今年の
フェア
アース